



▲民政官合同会議・第9回(一社)木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会要望活動発表会の様子

時の話題

第9回(二社)木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会(LWCPC)要望活動発表会を開催 (二社)木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会

民間要望団体と議員連盟、諸官庁による民政官合同会議

継続は力なり。ますます不透明化し混迷化する世界情勢の中、日本が直面する諸課題の大きな一つとして「身近な気候変動という地球規模の環境主題」という観点からのCO2削減への取組み」である。

その意味で、CO2の吸収と固定化を果たしている日本の「森林・木材」並びに木材産業は、気候変動・地球温暖化防止に資する再生可能資源として、また基幹産業としての民政官共有の位置付けが大切であり、必要である。

日本は、2050年「カーボンニュートラル」の目標に向け、持続的な森林資源供給と木材の伐採、加工、利用、植林サイクルを不断に推進して行く責務が課せられていることは必然である。

こうした中、国内にあって21世紀課題に持続的且つ現実的に取り組むべき大きなテーマとして「日本産材の利活用で低炭素社会の実現」化があり、これを社是として日々活動を進めている(一社)木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会(LWCPC)原口博光会

長、東京都板橋区常盤台4-13-3日新興産ビル内、03-3550-6311、36企業・団体・個人で構成)は、昨年に引き続き令和7年12月11日(木)14時45分から東京都港区永田町にある衆議院第1議員会館1階多目的ホールで、木の総合文化(ウッドレガシー)を推進する議員連盟(坂本哲志会長・自由民主党衆議院議員)所属の各議員、各諸官庁の担当官が一堂に会する中、第9回(一社)木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会(LWCPC)要望活動発表会を開催した。



▲(一社)木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会(LWCPC)の会長 原口博光氏

定刻、要望活動発表会は、木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会の平田耕一広報委員長の司会で進められた。まず、当日は国会開催中の為、開会の辞に先立ち議員連盟から衛藤征士郎最高顧問(前会長)と同じく太田昭宏最高顧問(前会長代行)の挨拶で始

まった。



▲挨拶する木の総合文化(ウッドレガシー)を推進する議員連盟の衛藤征士郎最高顧問

冒頭、衛藤最高顧問は「高市首相の内閣は決断と前進、日本は経済成長を目指すべきとの方針が固まっている。世界の2極化により日本の安全保障の構築は重要課題で、とりわけ経済安全保障は国家存立の根幹で喫緊且つ重要な課題である。国内の経済活動においては経済活動の大半を占める中小企業への支援、具体的には中小企業に占める補助金枠を4分の3、特別枠は5分の4にすべきだという意見もあり、今回の発表会内容もしっかり踏まえて議員連盟の皆さん共々要望して参りたいと思う」と挨拶。



▲挨拶する木の総合文化(ウッドレガシー)を推進する議員連盟の太田昭宏最高顧問

続いて、同じく議員連盟の太田昭宏最高顧問(前会長代行)が「今日は9回目となる要望活動発表会で、これまでウッドレガシーを推進する議員連盟はほぼ10年、衛藤先生を中心に活動して来られた。また今回、役所からは国交省の住宅局長宿本さんを始め林野庁他関連省庁の皆さんに来て頂き、全国各地から家具の他木材産業に係っている

「木の総合文化(ウッドレガシー)を推進する議員連盟」

最高顧問 会長 幹事長 共同事務局長 共同事務局 次長	衛藤 征士郎 殿 坂本 哲志 殿 齋藤 健 殿 横山 信一 殿 山崎 正恭 殿	最高顧問 会長代行 共同幹事長 事務局次長	太田 昭宏 殿 中谷 元 殿 岡本 三成 殿 三宅 伸吾 殿	顧問 会長代行 事務局長 共同事務局 次長	石田 祝稔 殿 齊藤 鉄夫 殿 武部 新 殿 中川 宏昌 殿
--	---	--------------------------------	---	-----------------------------------	---

要 望 書

一般社団法人 木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会(LWCPC)

日本合板商業組合 理事長 株式会社 東京組 社長 中国木材株式会社 会長 株式会社 金剛組 会長 株式会社 長谷川萬治商店 社長 木材産業要望活動団体 代表幹事 双日建材株式会社 社長 株式会社 新昭和 会長 株式会社 サンエィコー東日本 社長 海の森づくり推進協会 副会長 澤田雅之技術士事務所 所長 エコンスロビーひらた事務所 代表研究者	原口 博光 服部 順昭 門脇 秀策 藤田 勲 顧問 松田 恵明 木村産業要望活動団体代表幹事 東京農工大学名誉教授 海の森づくり推進協会副会長 鹿児島大学名誉教授 人吉神城文化の森・藤田株式会社社長 海の森づくり推進協会名誉会長 鹿児島大学名誉教授 カリモク家具株式会社 副社長 株式会社 日本の意 社長 株式会社 協和木材 社長 加賀木材株式会社 社長 細田木材工業株式会社 社長 (一社)日本木工機械工業会 理事長 防災不燃木材連絡協議会 会長 齋藤木材工業株式会社 社長 イー・アンド・イー・ソリューションズ 社長 (特非)地域交流センター 代表理事 (株)仁田コンサルティングファーム 社長 エコンスロビーひらた事務所 代表	日新興産株式会社 社長 (一財)神城文化の森 藤田財団 会長 株式会社 ヤマオ 社長 株式会社 エココスモ 社長 日青木材株式会社 社長 株式会社 ヤスジマ 社長 株式会社 トム 代表 (有)E.P.A環境変換装置建築研究所 取締役 (一社)マリンビタット志岐 代表理事 (特非)日本技術振興会 副理事長 海青社 社長 (認定NPO法人)江戸城天守を再建する会 会長	博光 藤田 勲 板橋 衛 賀龍六 貴 青木 一 安島 勲 柳田 信之 武松 幸治 田山 久倫 荒井 一美 田村 由記子 太田 寛曉
--	---	--	--

これから来年度の令和8年度の予算編成時期にも入る。その予算の獲得も含めて、これから本当の意味での木の総合文化立国を創り上げていく活動に全力で活動して参りたいと

企業の方々に参加を頂いた。皆さんには、総合的に木材を利用した環境に優しいモノづくりで長年の努力を感謝申し上げます。

理念として木は一番大事なことは間違いないが、近年は住宅造りも学校校舎建設でも資材の高騰で予算の高騰が一番大変だと。加えて人手不足も皆様方のお仕事では大変であろうと思っている。今日は坂本会長や我が党の斉藤代表も参加頂いているので、よく連携を取り合ってじっくり腰を据えての前進ができるように思っている。日頃からの皆さんのご努力に感謝申し上げます」と挨拶した。

引き続き議員連盟現会長の坂本哲志自由民主党衆議院議員からは「衛藤先生の後を受け、熊本県3区の坂本哲



▲挨拶する木の総合文化(ウッドレガシー)を推進する議員連盟の坂本哲志会長(自由民主党衆議院議員)

史がウッドレガシーを推進する議員連盟の会長を仰せつかっている。この会は公明党さんのご尽力を得て様々な活動をしている。政権は政権として、このウッドレガシーは自公連携でしっかりとやって参るのでどうか宜しくお願いを申し上げます。

日本は70%が山林で、木材の供給元から製造、製品から販売まで一体的につないで木の総合文化を創り日本らしさを創造したいと思っている。先般も林野庁長官に協議会の原口会長そして衛藤最高顧問共々に伺い要望をした。



▲挨拶する木の総合文化(ウッドレガシー)を推進する議員連盟の斉藤鉄夫会長代行(公明党衆議院議員)

思っている。どうか皆様方のご指導をよろしくお願い申し上げます」と、ウッドレガシーを推進する議員連盟代表者としての力強い挨拶を述べた。

続いて自公連携という事で、ウッドレガシーを推進する議員連盟の斉藤鉄夫会長代行(公明党衆議院議員・公明党代表)がマイクを渡され「岸田政権で3年間国土交通大臣をした。当時の農水大臣の坂本さんと連携して建築のいろいろな法律の大改正を行なった。中高層建築を木材で造れるよう法律改正をし、その中心になって頑張っていたのが坂本さんで、いろいろな越えるべき壁を越えさせて頂いた。今、東京駅を出て皇居の方に向かうと右側に昔の赤レンガビルはなくなり、木造で中高層建築が出来つつある。木造ビルが全国に広がっていくように、これから我々が頑張っていくと思う」と支援の挨拶を述べた。



▲開会の辞を述べる認定NPO「江戸城天守を再建する会」の木川静雄専務理事

さて、ウッドレガシーを推進する議員連盟の最高顧問、会長、会長代行の挨拶に続いて早速、認定NPO法人江戸城天守を再建する会の木川静雄専務



▲挨拶する木の総合文化(ウッドレガシー)を推進する議員連盟の横山信一共同事務局長(公明党衆議院議員)

理事が開会の辞で「私たちは魅力ある東京の国際観光交流都市形成に寄与することを目的として設立した。江戸城関係の天守建築の理念は、令和の新しい国づくりに向けて日本各地に広がる香り豊かな純国産の木材を使い木造の江戸城天守を築城することで、江戸時代に花開いた縄文以来の日本伝統文化の魅力を最先端ハイテク技術を駆使して世界に発信し、奥深い精神性を体感することを目指す拠点とする。それは魅力と活力に溢れた観光立国日本の新しい道標となる。これにより日本の若い世代が日本人として日本に生まれたことに誇りと自信を持ち、日本人としてのアイデンティティを確立し新しい日本の未来に繋げて行くことを期待している」と述べて要望活動発表会へと進められた。

次に司会から木の総合文化(ウッドレガシー)を推進する議員連盟の役員参加メンバーが紹介される中、議員連盟の横山信一共同事務局長(公明党衆議院議員)が挨拶に立ち「地球温暖化が大きな課題となり、気候変動も非常に激しく、今年も大きな山火事が各地で起き、大変な火災も発生した。地球温暖化対策計画は2040年までに200万トンのCO2を削減するとの目

標を掲げている。吸収源の中でも一番大きいのは森林であるが、如何に木材を使って森林の更新を早めて行くかが大事である。今日の皆様方の様々な提案をしつかりと聞き届けて前に進められるよう取り組んで参りたい」と語った。



▲挨拶する木の総合文化（ウッドレガシー）を推進する元会長代行（自民党衆議院議員）

引き続き議員連盟の中川宏昌共同事務局次長（公明党衆議院議員）が挨拶に立ち「先般も原口会長から木材産業を広めて行くに当たっては中小企業が肝だと指導を頂き、様々な場面で様々な補助金の嵩上げの必要性があるうと思っています。中小企業主導の木材産業そのものが成長分野であると思っている。その中でも、伐採期を迎えた木材をどう使っていくかが日本の中において今一番の課題であり、本日も皆様から様々なお知恵を承りたいと思う。今日もウッドレガシー推進協議会の皆様から様々な情報を吸収させて頂き、このウッドレガシーの理念である環境、経済、そして文化を結ぶことが出来るよう私も微力ながら働いて参る決意である」と語った。

ここで進行上マイクが諸官庁サイドに渡り、諸官庁代表として国土交通省の宿本尚吾住宅局長が「ウッドレガシー推進協議会の第9回の要望活動発表会



▲諸官庁を代表して挨拶する国土交通省の宿本尚吾住宅局長

にお招き頂き感謝したい。我が国の森林が本格的な利用期を迎える中で貴協議会では木造建築や家具、建具などに木材利用を広げて我が国で培われてきた木の文化を守り育てて行く取り組みを進めて頂いている。これは2050年のカーボンニュートラルの実現に大きく貢献し、今後益々重要なものである。住宅建築分野に於いても脱炭素化の取り組みをさらに進めていく必要がある。

国土交通省では令和7年度補正予算にエコ住宅2026事業を盛り込んで、住宅ローン減税なども含め引き続き省エネ性能の高い住宅の取得支援に取り組む考えである。また令和3年に改正された都市の木造化推進法に基づき公共建築、民間建築における木材利用の促進や中大規模木造建築物の普及に

役に立つ有用なプロジェクトへの支援等に取り組んでいる。さらに今後は建物の省エネだけではなく、建設から解体に至るまでの建築物のライフサイクル全体を通じて排出されるCO2の削減が重要になり、2028年度を目途に建築物ライフサイクルカーボンの評価実証制度の開始を目指して現在取り組んでいる。当然、木材利用の脱炭素というものが評価をされる。木材利用の促進や脱炭素社会の実現を推進協議会の皆様と連携をして持続可能な社会の実現に向けて取組みたいと考えている」と挨拶。



▲挨拶する木の総合文化（ウッドレガシー）を推進する元会長代行（自民党衆議院議員）

さらに議員連盟から矢倉克夫前公明党参議院議員が「9年前、農林水産大臣政務官として務めたので、例えば学校の木質化が子ども達を含めた人の心に与える影響で木材利用促進が重要だと実感した。私自身、早期に国政復帰を果たしより一層皆様方のお役に立てるよう頑張ってお参りたい」と挨拶。



▲挨拶する木の総合文化（ウッドレガシー）を推進する元会長代行（自民党衆議院議員）

続いて、国会の途中駆け付けた議員

連盟の中谷元会長代行（自由民主党衆議院議員）が挨拶に立ち「最近では東京・都心のビルも木造化で木材を利用している。また地方でも新築の住宅などもモダンで木の良さを取入れたものが広がっており、皆様方の運動が特に公務店とか建築会社設計会社に着実に浸透して意識も広まっている。その証拠に東京オリンピックの時も国立競技場の方も木で造ろうという発想を大事にするようになった。残念ながら木の価格がまだまだ低く山元まで経済効果が出来ていない。しかし木の需要が増えると途端に山元にも波及するのではないか。要は木を使用し需要を増やすことであるので、皆様方のリードにより役所の方も木材普及について一緒に頑張って頑張ってもらいたいと思う」と述べた。



▲挨拶する（一社）木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会の原口博光代表理事・会長

原口会長は師走の忙しい中、国会議員、諸官庁、木材産業からの参加により無事第9回民政官合同会議が開かれたことを感謝した上で「現場の声を届

けるべく手段として要望書を提出している。CO2を一番吸収して固定化するのが木材の大事な役目で、我々の運動は当初から日本産材を活用して地球温暖化や気候変動防止に木材産業の役目として取り組むべきだと思っている。議員連盟の皆さんは我々以上に理解されており、当初から森林・木材の環境に果たす役割を考えている方々だ。

もう一つ。我々の防災不燃木材連絡協議会として日本大学生産工学部の永井教授が委員長になって取組んでいる不燃木材のJIS「A-9011」への調査予算が国土交通省の宿本住宅局長にも応援して頂いて要求金額が万額認められたことを報告したい。

また、第1回目政策実現委員会の課題が木製サッシ専門に取組む日本の窓様、東京組様が提案された木製サッシで、政策実績委員会に林野庁長官並びに防衛省局長に出席して頂いた。日本の窓が作る木製サッシの性能データが素晴らしい防衛省のホームページにアルミや樹脂に加え木製サッシも使用可能とされた。結果としては業界の次に日本国民にその恩恵が波及することになる。

さらに4年ほど前に、林野庁の試算によれば木製サッシが汎用されれば日本産材はとて大きな量が使われることになるというデータを作った頂いた事もある。民政官合同会議は、本当に小さな現場の運動を政治家の先生方に

取り上げられ国家としてどう取組むかということに繋がり、利他から社会貢献へと拡がって行き我々国民全ての存在意義、国民からの税金の存在価値、国家国民の存在の貢献になる。今回も政治家、公務員の方々に木材産業として現場の声を一つ一つ届けるので真摯に向き合って頂きたいと思っている」とウッドレガシー推進協議会の立場、役割に言及した。

民政官代表者其々の挨拶を終え、ここから参加しているウッドレガシー推進協議会の役員紹介とメンバー17からの要望発表へと移った。誌面の関係上、具体的な要望内容については次号で掲載するが、発表者のみ次に記す。

■発表者順と内容

①カリモク家具(株)取締役副社長 加藤 信「国産広葉樹活用および木材供給体制強化に関する要望」、②(株)トム代表取締役 柳田信之「日本元気体創プランの支援・能登被災復興木の街づくり」、③(株)東京組・(株)日本の窓営業・中村、絹川「国産材木製サッシの優先的な支援策検討」、④認定NPO法人江戸城天守を再建する会専務理事 木川静雄「皇居東御苑に日本産材を使った木造江戸天守の再建」、⑤(株)エココスモ代表取締役 賀籠六 實「木材の歩留まり向上で儲かる木材産業・割れ防止塗料、早世桐の活用」、⑥木材産業要望活動団体代表幹事 原口博光「日本再起補助金の新設」、⑦中国木材(株)「外国人実習生に関する要望」、⑧(一

社)マリンハビタット 志岐代表理事 田山久倫「リーフボール技術を活用した海洋教育プログラム構築の要望」、⑨海の森づくり推進協会副会長 門脇秀策「海の森づくり推進協会からの要望」、⑩(特非)日本技術振興会副理事長 荒井一美「フラット35の免責規定見直しと国産材活用補助金について」、⑪澤田雅之技術士事務所所長 澤田雅之「公共建築物の木造化の促進にはデザインビルド方式が最適」、⑫地域交流センター代表理事 橋本正法「国土保全と持続可能性のための総合的森林政策に向けて」、⑬日本合板商業組合「日合商の要望」、⑭人吉神城文化の森・藤田(株)「木に係る企業・個人への継続的支援が必要」、⑮過年度LWCPC民政官合同会議・要望活動発表会からの案件折衝・予算枠獲得と委託先としての受諾裁可について(報告)

⑯都市防災不燃化部会不燃木材外装委員会 ⑰当該協議会執行役員会議

以上



▲閉会の辞を述べる
(一社)木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会の門脇秀策副会長

要望発表後、第9回民政官合同会議は、時間の都合上、ウッドレガシーを推進する議員連盟の横山共同事務局長が締めくくりに挨拶を行ない、最後にウッドレガシー推進協議会の門脇副会長が閉会の辞を述べ無事終了した。閉

会後は報道記者向けに記者会見の場が設けられ、原口会長、平田広報委員長、荒井監事が対応した。(2月号で関連記事)



▲カリモク家具(株)の加藤 信副社長



▲(株)トムの柳田 信之社長



▲(株)日本の窓の中村 喜喜営業



▲(株)エココスモの賀籠六 實社長



▲(一社)マリンハビタット 志岐の田山久倫代表理事



▲澤田雅之技術士事務所の澤田雅之所長



▶NPO 地域交流センターの橋本正法代表理事



▲不燃木材の調査研究を進める日本大学の学生(永井香織研究室)

▶記者会見に臨む右から(一社)木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会の原口博光代表理事、同・平田耕一広報委員長、同・荒井一美監事

